

地域の豊かさをいかして 稲城市のESD



稲城市は、稲城梨や高尾ぶどうの産地であり、自然の豊かさと人と人のつながりが残っています。こうした地域特性をいかし、地元農家の農作業への参加による「本物との出会い」や、樹林地における環境学習・地域

ぐるみの教育により、市内の全小学校でESD（持続発展教育）を推進しています。また、玉川大学や多摩市・稲城市からなる「ESDフォーラム」を通じた研究や、長野県野沢温泉村に植樹などを行なう「稲城の森100年プロジェクト」などを実施しています。

森林にふれ、育てる 稲城市立第一小学校 「稲城の森100年プロジェクト」



5年生は、稲城市内の「ふれあいの森」で森に親しむ「森林プログラム」を行なっています。6年生は、長野県野沢温泉村で「稲城の森100年プロジェクト」としてブナの植林活動をしています。このプロジェクトは市内全校で取り組んでいます。

里山の棚田で米づくり 稲城市立第二小学校 「坂浜里山プロジェクト」

古くからの里山や雑木林が保たれている稲城市の坂浜地区。稲城市立第二小学校は、この地域の特性をいかし、谷戸（谷あいの低地）の棚田を借りて米づくりを行なっています。



地域の人々の指導のもと、もみから苗を育て、田植えをし、秋の稲刈りにいたるまで、すべての作業を全学年の子どもたちが分担します。子どもたちは、収穫までの一連の作業を通じ、人や地域・自然のつながり・里山文化の大切さなどを再発見し、自分の住んでいる場所をもっと好きになるとともに、持続可能な開発・社会の構築に向けた一つの方法を、頭だけでなく体全体で理解していきます。